

「倉敷の近代建築を知る－有隣荘大原孫三郎邸の建築表現」 ノートルダム清心女子大学 上田恭嗣

－実業家大原孫三郎・建築家薬師寺主計・画家児島虎次郎そして庭師小川治兵衛の思い－

1. 拝命した勅任技師とは

2. 有隣荘の建築経緯

3. 有隣荘の特異な建築意匠

4. 和洋中の折衷様式

5. 児島虎次郎と薬師寺主計の存在

6. 伊東忠太と薬師寺主計の関係－靖国神社

7. 伊東忠太への依頼

8. 覆ったアール・デコ様式

9. 大原孫三郎と小川治兵衛

10. 知られざる茶室の存在

11. 大原美術館と有隣荘の存在

□大原家における建築家薬師寺主計の存在



大原孫三郎 (1880-1943) 薬師寺主計 (1884-1965)

- ・ 薬師寺主計とはどんな人物か 「総てを任せて信頼できる人物」
- ・ 大正2年頃から大原家の建築顧問となる
- ・ 薬師寺主計は、東京帝国大学への進学時、大原家の奨学生であった
- ・ 欧米建築視察 陸軍省在職時 1921-1923年 異例の長期間－宇垣一成と大原の関係
- ・ なぜ陸軍を辞めて倉敷に下ったか－進言した新しい化学繊維産業を創設
- ・ 陸軍にいても時代の流れの中で管理職になれない体制となった
- ・ 1923年の関東大震災の陸軍施設復旧工事 1926年6月倉敷絹織株式会社設立
- ・ 1929年8月 常務取締役兼工場長に就任－陸軍省嘱託技師返上
- ・ 設計集団組織を倉敷で作っている－住友営繕部 長谷部鋭吉
- ・ 「大原孫三郎の秘書的存在であった」と大原の偉業をとりまとめた伝記『大原孫三郎傳』の依頼原稿には自ら書き記している



有隣荘の茶室



有隣荘からの大原美術館



有隣荘大原孫三郎邸 (昭和3年.1928)
薬師寺主計設計 和風部分は伊東忠太の指導